

# 平成31年度学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校伊奈分校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につかせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病弱教育としての「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを行う。</li> <li>2 自立活動の実践をベースに子ども一人一人をしっかり見つめ、スムーズな復学を目指す。</li> <li>3 子ども主体の各種活動をおし、豊かな心・創造性を育む。</li> <li>4 病弱教育のセンター的機能の拡充と病弱教育の周知を図る。</li> </ol>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	平成30年度は研究の初年度として、ユニバーサルデザイングループとICTグループに分かれての研究を進めることができた。また、公開授業週間を設定し授業づくりについて学び合うことができた。平成31年度は時代とともに変化していく情報通信技術等に対応しつつ、児童生徒の興味・関心を高め、基礎学力を着実に向上させる取り組みが必要である。	病弱教育における授業のユニバーサルデザイン化やICT機器等の活用について研究し、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病弱教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりに関する実践研究」を昨年度に引き続きテーマとし、ICTの活用とユニバーサルデザインの視点から、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを行い、グループごとの研修や授業研究、公開授業週間を通して、分校全体で発信し合い、共有する。(相談・研究部)</li> <li>・各種情報機器の管理を工夫し、児童生徒や教員が学習活動等で使いやすい環境を整える。(教務・情報部)</li> <li>・情報機器の活用方法について、研修会等を積極的に行い、有効な活用ができるような基盤を整える。(教務・情報部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用とユニバーサルデザインのグループごとの研修や講師招聘研修会等を年間10回行うとともに、2学期に公開授業週間を設け、学び合いを行い、授業づくりに生かされたか。(相談・研究部)</li> <li>・各学部の先生方の意見を取り入れながら、ICT機器の適切な管理ができていたか。(教務・情報部)</li> <li>・各種ICT機器活用については、相談・研究部と協力し合いながら、研修を進めることができていたか。(教務・情報部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究や講師招聘研修等、研究テーマに係る研修を10回以上行うことができた。授業研究や公開授業週間での学び合いも、授業づくりに生かすことができた。さらに研究を通して、伊奈UDリストを作成できた。また、情報機器の使用も広がっている。(相談・研究部)</li> <li>・新しい機器類がそろい始め、管理方法について、多くの先生方に協力をもらい運用できた。(教務・情報部)</li> <li>・各教科の先生方が授業等で活発に活用していた。また、相談研究部の研修と共同して操作や管理に係わる研修を設定することができた。(教務・情報部)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き、病弱教育における授業のユニバーサルデザイン化やICT機器等の活用について研究をするとともに、内容を発展させ、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを進める。(相談・研究部)</li> <li>・保管の方法や活用の仕方については、分校内で更に共通理解を図り、しっかりと管理と効果的な活用ができるよう、情報交換を更に活発にしていきたい。(教務・情報部)</li> </ul>
2	昨年度は「自分メーター活用ブック」を用いた定期的な個別面談等により児童生徒の自己理解や気持ちの言語化を促す取り組みを進めることができた。また、集団における自立活動を計画的・持続的にを行い、集団参加や社会性の伸長につなげることができた。今年度はそれらの取り組みをさらに体系的に行い、伊奈分校の自立活動及び復学支援をさらにレベルアップさせていくことが望まれている。	「自分メーター」の活用をさらに進めるとともに、集団における自立活動の授業を充実させ、復学支援に生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尺度表「自分メーター」及び「活用ブック」の活用を体系的に行えるよう活用方法の研修を行い、共通理解と内容の充実を図り、復学支援につなげる。児童生徒の転入時は、スタートキットを用意し、有効に活用できるようにする。また、大学と協力して、アプリとも併用できるようにし、児童生徒にとって、取り組みやすいものとする。(相談・研究部)</li> <li>・集団における自立活動は、各学部で、週1回を目標に計画的に実施し、様々な教員が様々な角度からアプローチできるようにする。(相談・研究部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尺度表「自分メーター」及び「活用ブック」を体系的に活用できたか。(相談・研究部)</li> <li>・集団における自立活動を充実させることができたか。(相談・研究部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分メーター」の活用について共通理解を図るとともに、スタートキットを用意し、取組の充実を図った。しかし、復学支援会議での活用は、まだ十分ではない。また、日本工業大学と協力し、「自分メーター」のアプリ化ができた。(相談・研究部)</li> <li>・集団における自立活動を、週1回行い、集団での取り組みを定着させ、集団参加の力を育むことができた。(相談・研究部)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分メーター」の通常取組は、浸透しているが、復学支援会議での活用は、まだ十分ではない。引き続き体系的に活用できるよう工夫や周知を行う。アプリについては、活用をしながら、日本工業大学と協力し、さらに使いやすさの向上と発展させる。(相談・研究部)</li> <li>・集団における自立活動を、様々な教員が様々な角度から取り組めるようにする。(相談・研究部)</li> </ul>
3	平成30年度は集会行事における委員会活動の充実に取り組み、児童生徒の達成感や充実感を高めることができた。一方、学校行事等に参加することが難しい児童生徒や人前に出ることが難しい児童生徒もいるため、より多くの児童生徒が主体的に学校行事等に参加する方策を検討する必要がある。また、不登校等により体験が不足している児童生徒が多いため、多様な体験活動を充実させる必要がある。	魅力あふれる学校行事や委員会活動等により、児童生徒が豊かな体験を積み、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激の少ない場所を教室内に設けることで、落ち着いて学習に取り組める経験とし、各行事や学校生活の中で、一人一人の個性や適性に合った役割や学習内容を設定する。(小学部)</li> <li>・学校行事等に参加することや、人前に出ることが難しい生徒も行事を作り上げていく達成感、充実感を感じられるようにするために、学校行事の会場に飾る壁面制作などを行う。(中学部)</li> <li>・生徒が主体的に携わることができる活動を用意し、生徒がその活動に取り組むこと、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができたか。(中学部)</li> <li>・今年度新たな取り組みとして、職業に関する講話を実施し、身近で働いている人の話を聞くことにより、自らの進路や将来について考える機会を持つようにする。(指導・保健部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室を整備し、学習環境を整えることができたか。(小学部)</li> <li>・週に1回面談を実施し、教員との振り返りを通して、自己理解を進めることができたか。(小学部)</li> <li>・生徒が主体的に携わることができる活動を用意し、生徒がその活動に取り組むこと、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができたか。(中学部)</li> <li>・職業に関する講話を聞いて、生徒自身が進路や将来のことを考えることができたか。(指導・保健部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内に仕切りで区切った学習スペースを設けた。また机上でつかえる仕切り板を用意した。漢字や計算などの学び直しの個別課題に取り組むときに、自主的に活用し、落ち着いて学習に取り組める時間が増えた。(小学部)</li> <li>・大人への相談や人との関わりをとおして、自己理解を深めることができた。(小学部)</li> <li>・今年度は、学校行事で発表をしない生徒の活動として、行事の看板作りを行った。当日、看板が飾られたことで、発表することが難しい生徒も、行事を作り上げていく達成感、充実感を感じられた。(中学部)</li> <li>・7月に職業に関する講話を中学部生徒を対象に実施し、身近で働く先輩の方から働く意義ややりがい等の話を聞くことにより、生徒自身が進路や将来について考える機会となった。(指導・保健部)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信のなさや不安の強さから不適切な行動をとってしまう児童が見られた。自尊感情の向上や不安を軽減させる取り組みは必要であると感じる。(小学部)</li> <li>・生徒が主体的に携わることができる活動として、行事の看板作りは有効だった。さらに、一人一人が、活躍できる場面を設定し、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができるようにする。(中学部)</li> <li>・来年度も7月に職業に関する講話を行っていく予定である。(指導・保健部)</li> </ul>
4	昨年度は小・中・高等学校等から学校コンサルテーションや研修会の要請が増加し、精神疾患や心身症等の児童生徒支援のニーズがさらに高まっていると考える。一方、校内の教員からも複雑なケースの対応の困難さが挙げられている。校外、校内のバランスをとりながら両立を図る工夫が求められている。	公開講座、学校コンサルテーション等をおし、精神疾患や心身症等の児童生徒理解を進めるとともに、より良い支援のあり方を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、全市町村へのパンフレットの配布等をおして、伊奈分校の取組を広く発信し、特性を生かしたセンター的機能果たせるようにする。相談ニーズに応じて、計画的に支援を行うい、校内支援とのバランスを図る。転出児童生徒については、追調査を行い、集約し、今後の指導に生かす。(相談・研究部)</li> <li>・地域支援を計画的に進められたか。(相談・研究部)</li> <li>・追調査を集約し、指導に生かされたか。(相談・研究部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全市町村へのパンフレット等の配布を通して、伊奈分校の取組を広く発信し、特性を生かしたセンター的機能果たせるようにできた。公開講座も夏冬2回実施し、県内から約260名の教員の参加があった。地域支援については、日程の調整等、校内支援とのバランスを取りながら進めることができた。(相談・研究部)</li> <li>・転出児童の追調査は、集約し、指導に生かすための書式ができた。(相談・研究部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全市町村へのパンフレット等の配布を通して、伊奈分校の取組を広く発信し、特性を生かしたセンター的機能果たせるようにできた。公開講座も夏冬2回実施し、県内から約260名の教員の参加があった。地域支援については、日程の調整等、校内支援とのバランスを取りながら進めることができた。(相談・研究部)</li> <li>・転出児童の追調査は、集約し、指導に生かすための書式ができた。(相談・研究部)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座や学校コンサルテーションを通して、さらに精神疾患・心身症等の児童生徒理解を進められるようにする。(相談・研究部)</li> <li>・転出児童の追調査を集約し、今後の指導に生かす。(相談・研究部)</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院内にある特別支援学校として、すべての教科等がきめ細かく行われている。教員の数が少ない院内学級ではできないことが行えている。</li> <li>・ICT機器を活用し、個に応じた指導を充実させているところが良い。</li> <li>・児童生徒の情動を発生させる学びが大切である。個別学習では情動を発生させることが難しい。一緒に学ぶ仲間がいることで学習の定着度が変わってくる。</li> <li>・ICT機器に関しては、インフラ整備や保守にかかる予算が必要となる。計画的に実施していくことが大切である。</li> <li>・入院している児童生徒のため学習量が少なかりがちである。基礎学力の定着に尽力してもらいたい。</li> <li>・児童生徒が自分の意思を表示する力を持つことで復学後の不安を軽減させることができる。</li> <li>・「自分メーター」については、小中学校等にさらに周知してもらいたい。また、復学支援における具体的な実践を広めてもらいたい。</li> <li>・中学3年生の場面は、進路先での学びや退院後の生活や通院等も視野に入れながら支援や関係機関との連携をもっと深くすることが大切である。</li> <li>・復学支援にICTを活用して、スマールステップが組めるようになると良い。</li> <li>・自己肯定感や自尊感情を高める取組はとても大切である。</li> <li>・取組によってどのような効果があったかを具体的に発信できること良い。</li> <li>・自信を持たせることが、退院後の地元校への復学や進路先での学習や生活に大きく影響する。今後も児童生徒が主体的に取り組む、自信を持っていく指導してもらいたい。</li> <li>・全国的に見ても先駆的な取組をしている。埼玉県の小中高高等学校等への発信のみならず、日本の病弱教育を牽引していくことを視野に入れて努力を続けてもらいたい。</li> <li>・児童生徒のみならず保護者の支援も行うことができています。そういったことも発信してもらいたい。退院した保護者の相談にも引き続き応じていってほしい。</li> <li>・他の病院に入院している小中高高等学校等の児童生徒がいる。遠隔での学習についてなど、さらに発信してもらいたい。</li> </ul>	